

平成24年度事務事業評価シート (23年度実施事業分)

事業番号	07 01 02	中期総合計画主要施策番号	2-02	担当課	部・課	観光部観光企画課	
事業名	エリア10観光振興プロジェクト事業				内 線	3516	
					E-mail	kankoki@pref.nagano.lg.jp	
実施期間	H20 ~	根拠法令等	「観光立県長野」再興計画				
実施方法	県が直接実施					国庫・ 県単	県単独事業

事業の概要等	目的(必要性)	広域行政圏ごとに、市町村、観光団体や観光事業者など関係者が連携し、地域が主体的に地域特性を生かした観光振興に取り組める体制づくりを行い、誘客の促進と地域の活性化を図る。
	対象	各広域行政圏内の観光事業者、観光協会、市町村、関係団体、など
	目指すべき姿	広域行政圏ごとの地域観光戦略会議の設置により、地域が主体的に地域特性を生かした観光振興に取り組める体制づくりを行い、誘客の促進と地域の活性化を図る。
	事業内容	・地域観光戦略会議の設置、運営 ・地域が一体となり観光振興策に取り組む意識の醸成を図るために、地域観光戦略会議が行う事業経費の負担

事業コスト	区分	単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額 (A)	千円	571	822	0	・地域観光戦略会議アドバイザー謝金:315千円 ・地域観光戦略会議アドバイザー費用弁償:179千円
	決算額 (B)	千円	468	494		
	B(H24はA)のうち一般財源	千円	468	494		
	概算人件費	人	0.24	0.24	0.24	
	概算事業費 (B(H24はA) + C)	千円	2,464	2,476	1,982	
事業実績	成果指標・活動指標内容	単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績
	地域観光戦略会議の開催数(活)	回	13	19	20	・各地域観光戦略会議において、観光地の美化活動やJR駅、高速道路SA等における観光PRを行った。 ・「未知を歩こう。」信州2011キャンペーン、長野県スキー発祥100周年キャンペーンなど、地域が一体となって誘客活動に取り組んだ。 ・エリアによっては、地元観光関係団体が主催する同種の組織へ地域観光戦略会議を位置付け、活動した。 (効率指標算出式) 事業費 / 地域観光戦略会議開催回数
	分科会の開催(活)	回	71	69	20	
	<効率指標(単位当たりコスト等)> 地域観光戦略会議開催	千円 / 回	35	43.9		

事業の成果	事業の目標(H23)	事業成果・評価	評価区分
	・地域観光戦略会議を開催し、「未知を歩こう。」信州2011キャンペーンに取り組むため、連携を強化する。 ・分科会を実施し、昨年度の信州DCを契機に掘り起こしが進んだ観光資源の発信を行うとともに、各地域の課題に対応した取組を行う。	・10広域圏全てで地域観光戦略会議が開催され、地域の各主体が一体となって観光振興施策に取り組む体制づくりができた。 ・前年度実施した信州DCを契機に掘り起こされた観光資源の発信や、「未知を歩こう。信州2011」キャンペーンへの取組が行われた。 ・分科会では、地域毎にテーマを設定し、それに対応した研究・取組が進んだ。	b 期待どおり

事業の課題	区分	判定・説明				
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定	・事業開始以来、市町村、観光事業者が連携した、地域主体の様々な取組が行われてきた。平成22年度の信州DCに向けては、地域の観光資源の見直しや掘り起こしが進んだが、今後はそれらを生かした観光振興策を展開していくため、引き続き事業を進める必要がある。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり	説明	
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

総合分析等	総合分析(今後の課題、取組方針等)	・地産地消に向けた旅館等と農産物直売所・加工施設との意見交換会、地域新商品販路開拓キャラバン(上小)、広域観光プログラムの作成(木曽)、外国人旅行者の受入体制整備に係る研修会の開催(松本)、観光ガイド・案内人等担い手づくり研修会の開催(北安曇)などに取り組んだ。 ・各広域行政圏ごとに地域の特性を生かした独自の取組を行ってきており、今後も取組の発展に期待したい。 ・信州DCを契機に掘り起こされた観光資源をさらに磨いていくための検討の場としての必要性が、引き続き期待される。
	特記事項	「観光立県」長野再興計画(2008～2012)における重点プロジェクト「エリア10(テン)観光振興プロジェクト」として位置付けられている。 平成24年度予算は、地方事務所長総合調整推進費による支出にて事業実施。